

デマンド交通を有効活用した 持続可能な地域づくり

INTERVIEW



多様な実証実験を並行して実施

長崎県雲仙市では、2019（令和元）年から市内北部で実証実験を行ってきたデマンド交通「チョイソコうんぜん」の運行エリアを2022（令和4）年7月から市全域に拡大し、本格運行を開始している。本プロジェクトは「チョイソコうんぜん」の高付加価値化や利活用促進を図るもので、共創による複数の実証実験を並行して実施している。

その先頭を切って2022（令和4）年11月から行われているのが、センサーを搭載して道路の破損状況を監視するシステムの実証実験だ。

「現在4台で運行している『チョイソコうんぜん』に車載カメラ等を搭載して、振動などから路面の傷みなど異常を察知した際にデータが市の建設部に送られる仕組みです。現在は破損状況がシステムに反映されて、カメラの画像と合わせて検証を行っているところで、実際に道路の損傷が認められれば現地確認をするという

流れになっています。現時点ではマンホールや横断側溝なども異常として感知してしまう課題が出てきています。」（雲仙市政策企画課 中村勝也氏）。

2つ目は、観光客向けの新サービスの実証だ。雲仙市には雲仙岳をはじめ、雲仙温泉や小浜温泉など多くの観光地がある。その観光客の輸送にもデマンド交通を活用しようというものだ。

「昼間は路線バスがありますが、バスがない夜間の時間帯に温泉街の観光客の移動手段として使ってもらおうという取組です。競合するタクシー事業者と調整したうえで、市の観光局に委託して（2023（令和5）年）2月に実証実験を行います」（中村氏）。

同じく2023（令和5）年2月から実証実験が行われるのが、地元野菜の販促だ。こちらも観光局に委託し、生産者である農家と、消費者である飲食店や旅館、スーパーなどをマッチング

して地元野菜の消費促進を図る。

「チョイソコのスポンサーとなっていただいているお店でも売っていただき、チョイソコの利用者が買えるような形で検討しています」（中村氏）。

スポンサーは47社

ユニークなのが、次世代型電動車イスの貸出事業だ。市内のみずほすこやかランドと雲仙市小浜体育館の2カ所で次世代型電動車イスを貸し出して、「チョイソコうんぜん」降車後の移動手段として乗り継いでもらおうという趣旨で、2022（令和4）年12月から実証実験が行われている。

「高齢者や障がい者の外出促進として、チョイソコを降りた先も考える必要があります。すこやかランドは屋外の公園なので散策に、体育館は競技の観戦などで使ってもらおうというねらいです」（中村氏）。

さらに地域の外出促進を目的として、2023（令和5）年3月にはチョイソコPRも兼ねたイベントを企画している。市と包括協定を結ぶ企業やチョイソコのスポンサー企業等もブース出

展する形で開催される予定だ。

「チョイソコうんぜん」を持続可能な事業として動かしていくには、ファイナンスの確保も重要になる。今回の実証実験のような取り組みはもちろん、協賛企業やスポンサーの獲得も不可欠だ。

「運賃やスポンサー収入に加え市の負担金で運営することになりますが、現状年間800万円近い収入を確保できており、スポンサーも47社にご協力いただいています。まちの強みを生かすにあたり、カギを握るのは移動手段です。チョイソコうんぜんを持続可能な形で運営することで、地域コミュニティを活性化していきたいと考えています」（中村氏）。

さまざまな実証実験に取り組んでいるなか、スポンサーの確保も含めた全体調整を担っている市にかかる負荷は少なくない。

「庁内関係部局やさまざまな企業はもちろん、観光局や社会福祉協議会などの市内関係団体を含め、多くの人たちに動いていただいております。これこそ「共創」なのだ実感しています」（中村氏）。

